

(1)英語科における昨年度の改善プランの検証

観点	検証
関心・意欲・態度	2・3年生ともに良く取り組むことができている。英語科の先生方や、外国人講師の授業の工夫の成果であると考えられる。日々の授業で得た反省を踏まえ、今後とも授業力の向上に努めていきたい。
表現の能力	例年未解答が多い「表現の能力」を問う問題であるが、未解答率が前年度より減っているため、多くの生徒に問題に取り組もうとする意欲が見られた。授業や定期考査等で表現活動を積極的に取り入れている成果と思われる。一方で、一文目は書けても、その先が続かないことがあるようなので、授業中の活動の中で様々な表現に触れる機会を設けたい。
理解の能力	リスニング、教科書本文のTF問題、Q&A問題の演習、50～100語程度の読み物の活動をほぼ毎時間に取り入れているが、読解問題への苦手意識が強い傾向にある。
知識・理解	日々の授業において、パワーポイントやデジタル教科書を活用して新出単語や新出表現の導入を行い、生徒は興味関心を持って授業に臨んでいるように見られたが、単語の書き取りの評価が低く、定着していないことがわかる。反復練習を行う機会を設けていきたい。

(2)英語科の学習効果測定等における分析(内容別・観点別)

内容項目	分析
聞くこと	2、3年生共に前年度より数値が下回っている。誤答が多くみられる問題として、3年生は対話の内容を聞き取り適切な応答を選択する問題で、2年生は曜日や時間帯、英文の要点を聞き取る問題に苦手傾向が見られた。
読むこと	2、3年生共に前年度より大きく数値が下回っている。日々の授業で行っている活動のわりに数値が伸びていない。2、3年生共に長文内容を理解して問題に取り組む活動が苦手で、特に2年生は現在進行形の表現を使った文の理解の問題が、3年生は長文の内容に関する質問に英語で答える問題が目標値より大きく下回っている。
書くこと	2、3年生共に本来書けるべきである単語の書き取りができている。また、正しい語順で書かなければいけない問題の正答率が低い。

観点	分析
関心・意欲・態度	2、3年生共に3文以上の条件英作文については、第一文目の正答率が60%を上回っており、英作文に意欲的に取り組もうとしている姿勢がみられた。
表現の能力	書くことの問題は、2、3年生共に前年度の数値を下回るか、目標値を下回っており、改善が必要である。
理解の能力	リスニングは比較的良い数値であった。これは日々の授業で歌を歌ったり、教科書のリスニング問題を欠かさず行ったりしている成果だと考える。一方で、読むことに関しては課題が残る。帯活動で取り入れている読解問題をこれからも継続し、レベルアップを図りたい。
知識・理解	2、3年生とも語形・語法の知識理解の問題で、目標値を下回るものが見られた。前の学年で学習した文法をきちんと理解しないまま学習が進んでしまっていると考えられる。

(3)英語科の学習効果測定等における課題

前年度に比べ、2、3年共に数値を下回るものが多く、課題が多くみられた。これは前年度の学習内容が定着しないまま、次の学年の学習に進んでいる可能性が考えられる。反復学習や家庭学習の充実を図り、学習内容の定着をさせていきたい。
--

(4)英語科の具体的授業改善策

観点	具体的な授業改善策
関心・意欲・態度	生徒のレベルに応じ、英語による発問を工夫することで、多くの生徒に発言を促し、授業の活性化を図る。また、生徒が自主的に家庭学習における音読練習に打ち込めるよう、授業内の発音練習を徹底して行う。「関心・意欲・態度」の観点は、小中一貫教育で重点化していることもあるので、小学校英語活動との連携を深め、発達段階に応じた英語学習への意識づけを行う。各月に設定しているALTの授業は、日常の英語授業と雰囲気を変え、「英語学習は楽しい」と生徒に実感させ、生徒が楽しみながら取り組める内容を工夫する。ALTと共に実際に英語を使う必然性が生じる場면을授業内に設定し、生徒にとって「覚なければいけない」という義務感よりも、発話量を多くすることで、自然に「〇〇の場面で、コミュニケーションができるようになる」という授業作りを目指す。
表現の能力	ペアワーク・グループワークなどを通して対話的な学び合い学習を推進する。十分な発話量を保証し、生徒が互いに英語によるコミュニケーションをすることで英語力を高め合えるような時間を授業内で大事にしていく。特にALTの授業を最大限活用し、英語による英語の授業を行い、聞く⇒話す⇒(読む)⇒(書く)という手順で表現力の向上を目指す。 本校生徒が苦手とする「単語の書き取り」「条件に応じた英作文」について、毎時間、宿題として家庭学習課題を出す、個々の生徒の理解度や、目標に対する到達度を確認しつつ、スモールステップで授業を進めていく。また、英作文の指導に関しては、少人数授業の特性を活かして、授業中の生徒の活動に対する机間指導を徹底するなどして改善を心掛ける。自己関連性を重視した表現活動の展開を心掛ける。(自分に関わる内容を英語で表現させる内容の工夫をする。)
理解の能力	日々の授業でTF問題、Q&A問題などの英問・英答練習を数多く行うことで、生徒に一定のまとまった内容のある英語の文章を、日本語の解説やサポートを介さず、英語のまま理解させる習慣をつけさせ、さらに三年生は来春の入試を目標にして、限られた時間内で都立高校入試の読解問題が解けるように演習させる。また、全学年教科書のReviewの問題や、副教材等の問題を使うなどして、生徒の初見の英文読解の問題に取り組むことへの抵抗感を減らし、長文の読み取り力を強化していく。
知識・理解	語形・語法、語彙の書き取り力が不足しているので、宿題として家庭学習の課題を提示する。定期的にスベリングコンテストや文法事項の小テストを実施するなど、生徒が日常的に英語の家庭学習に取り組む動機付けを行う。教科書の単元が終了した時点で、その単元の文法事項の復習を必ず行う。また、授業内では発音練習の機会をたくさん設け、生徒が自信を持って教科書の英文を正しく英語らしい発音で音読、または暗唱できるように工夫していく。

内容項目	具体的な授業改善策
聞くこと	毎時間の活動にリスニング活動を取り入れ、生徒の耳を英語に慣らし、また、音読練習をたくさん行い、英語の語順が自然と身に付くようにする。ALTの授業を最大限活用し、nativeの発音に耳慣れし、発話する機会を増やしていく。
読むこと	教科書の内容理解を中心として、パワーポイントやデジタル教科書による教員のオーラルイントロダクションによって文の大意を生徒に理解させ、初出の英文に取り組むことへの抵抗をなくす工夫を行う。また語形・語法・語彙の知識・理解において、単元ごとに小テストを行うことで、生徒に家庭学習を促し、基礎力を身に付けさせていく。
書くこと	帯活動として英問・英答練習を充実させ、基本文の定着に力を入れる。また、家庭学習として発音しながら英文を書く練習をするよう生徒に促す。学期ごとに自己表現の発表活動を取り入れ、話すことができた内容について作品を作り、3年間で自己関連性を重視したテーマについて正しい英文で書けることを増やしていく。

学年	具体的な授業改善策
1学年	生徒の、小学校で身に付けてきた英語活動に関する興味を大切に、小中一貫教育の重点化観点である関心・意欲を中学校でも高めていけるように特に入門期から、今年度一年間の授業内容の工夫をする。ALTとの授業を最大活用して、実際の英会話や英語表現を使っの活動の場面を授業中に取り入れるように努める。小学校の英語活動から、中学校における教科としての英語学習へのつなぎをスムーズに進める。アセスメントテストを実施し、各小学校での活動の内容や個々の生徒の英語力と英語に対する関心・意欲を把握する。活気に満ちて、生徒が楽しいと思いつつ、小学校英語から少しずつ発展させた授業を実践する。
2学年	リスニングにおいて英文の要点をつかんだり、対話の内容に対する応答の力が弱いので、2学期以降も毎時間の帯活動において聞く、話すといったアクティビティを継続指導する。また、ALTとの授業では、なるべく英語の授業を英語で進めるようにして、聞く力、話す力を英語を使う自然な場面の中でのばしていく。2学期より50語～100語程度のまとまった内容の英文を読む活動も取り入れ、将来的にはある程度まとまった英語の長文を、一定の時間内に自力で読み取る力と、与えられたテーマに対して正しい英文で書くことへの自信をつけていきたい。英作文の指導は、ALTの力も借りながら、少人数授業の特性を生かして個々の生徒にきめ細かい指導を行っていく。
3学年	リスニング力はかなりついてきているので今まで通り、毎時間の英語の歌やリスニング活動といった帯活動を継続したい。ALTの授業では、各学年共通に、なるべく英語の授業を英語で進めるようにして、聞く力、話す力を英語を使う自然な場面の中でのばしていく。少人数授業において、ペアワーク、発表活動を通して、対話的な学び、生徒同士の相互教育力を活かして、英語の発話に対する抵抗感も減らしていきたい。1学期から取り入れている100語程度の英文読み取り活動を2学期以降も毎時間行い、生徒の所見英語の読み取りに対する自信に繋がれるよう指導していく。2学期以降は都立高校の入試問題に慣れていけるように、副教材問題集の初見問題や様々な英文読み物教材を取り上げ、制限時間内で問題演習させ、長文を読むことへの抵抗をなくしていく。